

年 組 名前：

問1

山梨県内の書店が、地域の企業の包装紙を活用したブックカバーを作製しました。なにに影響を受けて始めましたか。

.....
.....
.....
.....
.....

問2

身延町の川窪書店のブックカバーは、何色ですか。

.....

問3

富士河口湖町の卓示書店は、どのようなデザインの包装紙を使っていますか。

.....

問4

この取り組みは、書店にとって、なにが良いと思いますか。

.....
.....

地元企業包装紙でブックカバー作製

富士河口湖と身延の書店



卓示書店で配布している3種類のブックカバー
＝富士河口湖町船津



川窪書店が配布している「ゆは工房五大」の包装紙を使ったブックカバー
＝身延町下山

富士河口湖町船津の「河口湖ショッピングセンターBEE」内にある卓示書店と、身延町下山の川窪書店は、地域の企業の包装紙を活用したブックカバーを作製した。「本離れ」を阻止するために県内の書店が展開している取り組みに影響を受けたもので、卓示書店の渡辺卓史店長は「来店客の満足度を上げるきっかけにしたい」と話している。

卓示書店では、富士吉田市の洋菓子店「アーヴェント」、富士河口湖町の酒蔵「井出醸造」の包装紙を使用したブックカバーを作ったことから企画した。卓示書店では、富士吉田市の店「富士吉田市の和菓子店」東京屋製菓」から包装紙の提供を受け、ブックカバーを製作。社名や富士山のロゴが描かれたデザインが特徴で、文庫本用を約400冊分用意した。好評の場合は追加したり、新たな企業と協力したりすることなどを検討するという。

同町の「ゆは工房五大」と協力したブックカバーを配布している。約30年前から使用している小豆色の包装紙には、身延山と店の近づくを流れる樽川に囲まれた店の外観があらわれている。

大内美保店長は、地域とのつながりを深めたいと考えていたといい、「書店に足を運ぶきっかけになり、多くの人に本や町の魅力を伝えていければうれしい」と話している。

〈高橋咲良、齋藤君美〉

(2025年8月15日付 山梨日日新聞 15面)